

「計画」

打出 中学校

令和8年度 我が校の学力向上策

【県目標】第Ⅲ期学力向上滋賀プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学力を高める。

【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達の段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】

○第4期大津市教育振興基本計画

「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校の目標】

自信と誇りを持ち 夢と志をはぐくむ教育

- 打ち出す力 挑戦する生徒
- 智恵を出し合い心耕す生徒
- 伝統を大切にして地域を愛する生徒

【現状と課題】

○視点1

(1) 授業を手段として、生徒が主体的・対話的に学べるように育てることについて、学校全体で取り組んでいくため、全教員の取組としてのさらなる追究が必要である。
 (2) 授業においてICTを効率的に活用し、個別最適化された学びが行えている。プレゼンテーションなどを今後おこなえる力を今以上に付けていく必要がある。また、情報モラルやSNSトラブルの回避などの力を今以上に付ける必要がある。

○視点2

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から、自己肯定感や自尊感情の向上が継続的な課題であり、自他ともに大切にできる生徒の育成に力を入れる必要がある。

○視点3

若い教員が増える中で、先輩教員の学級経営や生徒指導、教科指導に関する継承が円滑にすすむよう、組織力を高めていくことが必要である。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学習のアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①「主体的・対話的に学べる生徒を育成するには～生徒が自らが発見し、共に学べる仕組みづくり～」について研鑽を積み、実践する。	①教員が「授業」を手段として、生徒が主体的・対話的に学べるように育てていく環境や雰囲気、風土作りが実践できた。
②ICTを効率的に活用するなど、個別最適化された学びをすすめる。	②授業で効果的なICTを活用し、個別最適な学びの実践をし、全国学力状況調査の生徒質問項目において、おおむね満足出来る。

【視点2】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①生徒が自らの考えを深め、判断し表現する力を育む道徳の実践をする。	・①道徳の授業で生徒が自らの考えを基に議論したり書いたりするなど、言語活動の充実を図ることができた。
②発達支持的生徒指導を推進し、学級活動や生徒会活動で生徒に役割を与え、認めていくことで、自他ともに大切に、いじめをしない集団作りにつなげる。	・②授業や学級経営で多様な意見を認め合い、全ての生徒が安心して、考えたことを発言できる機会を設定するなど、自己存在感を高める取組を行った。 ・②に対する学校評価アンケート(生徒対象)において、「先生は、いじめなどの問題にきちんと対応し、安心して登校できる学校づくりに取り組んでいる。」に対する肯定的な回答の割合が8割以上。

【視点3】協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標
〇〇J TやG-O J Tにより指導力を高めるとともに、ベテラン教員が若手教員に知識・技能を伝授し、共に資質・能力の向上に努める。	・OJTや他の教員の授業参観で学んだり、指導・助言を行ったりすることで、授業や学級経営、生徒指導の改善を図ることができた。 ・組織的な指導力の向上のために、教師が授業のフリー参観の実施や、道徳授業を全校教員で取り組み、教科の取組の改善点などについて意見交流をすることができた。 ・学校評価アンケート(生徒対象)において、「先生は、内容が分かりやすくなるよう、授業を創意工夫している。」に対する肯定的な回答の割合が8割以上。

◇「学力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

- ・学力向上委員会「学力向上策」について検討し、作成する。
- ・年度当初の職員会議において、打出中学校の「学力の向上策」の取組について説明する。
- ・6月、8月、11月、2月の教科部会で、各教員が取組の振り返りを行う。
- ・8月の教科部会の振り返りを基に、学力向上委員会1回目の評価を行い、改善策をまとめる。
- ・その後の職員会議で取組の状況と改善策を共有し、後期の取組につなげる。
- ・校内研究において、本校の取組を常に確認し、生徒の学びの向上に向けて話す場を作る。